

## 実施計画名

京都橘大学ビーチバレー ホームゲーム「ビーチバレー ボール大学対校戦 -KYOTO TACHIBANA CUP-」

## ■実施概要

主 催 者	京都橘大学	実 施 種 目	ビーチバレー ボール	対 戦 チーム	全国の大学から 女子12チーム
実 施 時 期	2025年10月11日（土）、12日（日）		実 施 場 所	京都橘大学 KYOTO TACHIBANA スタジアムビーチスポーツコート	

## ■ホームゲーム内容

## ★京都府内で唯一、関西でも最大規模を誇るビーチスポーツコートで公認大会を開催する

競技にとどまらず、演出、地域交流、企業連携など、垣根を超えた多面的なスポーツイベントとして展開する。

## ○学生による運営・継承体制の確立

一般学生向けの説明会を通じて約30名の実行委員を募集し、広報、競技、演出、地域イベントなど多様な分野に関与する。運営資料のテンプレート化を進め、継続開催に向けた運営文化と仕組みを構築する。

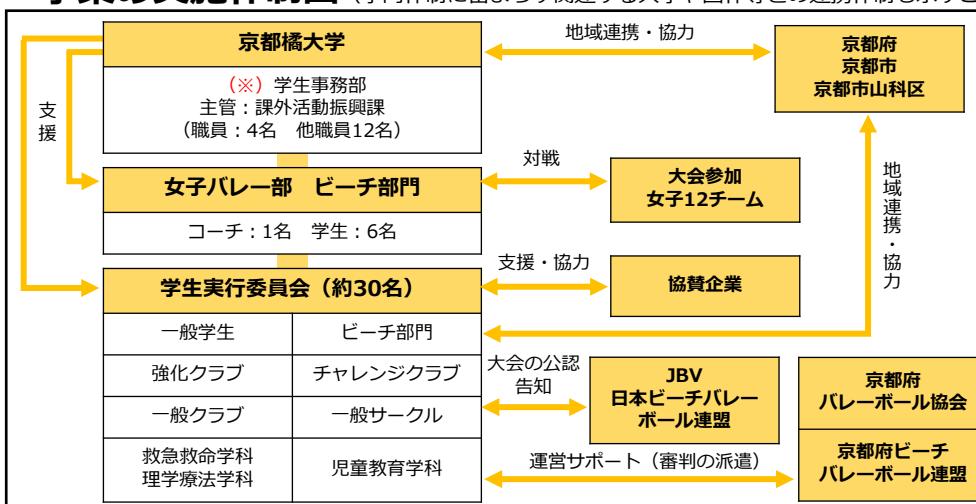
## ○地域・企業との連携による共創空間の創出

行政・地域団体・地域事業者と連携し、学生が地域と関わる実践的な学びの場として大会を位置づけるとともに、地域との共創による「場づくり」を推進し、大学スポーツの新たな価値と可能性を提示する。&lt;1日目&gt;には、地域の小中学生を対象としたビーチバレー体験企画を開催し、実際にスポーツを「する」体験と、レベルの高い大学スポーツを「みる」経験の両面から、その魅力を広く伝える。

## ○大学生向けのエキシビション・クリニック企画

&lt;2日目&gt;には、プロ選手を招いたエキシビションマッチおよび大学生向けクリニックを実施し、「みる」「する」両面からの競技意識の醸成を図る。

## ■事業の実施体制図（学内体制に留まらず関連する大学や団体等との連携体制も示すこと）



## ■大学スポーツムーブメントを創出するための施策

## ①学生主体の運営

学生が企画・運営を担い、競技者、支援者、観戦者など多面的にスポーツに関わる環境を創出し、主体的な参加意識を醸成する。「私たちもやってみる」というムーブメントを起こし、ノウハウの提供を行う。それにコミュニケーションを取り共創していくリーダーシップを発揮する。

## ②地域連携による開かれた場づくり

ビーチバレーを「する（競技者）」だけでなく、「みる（観客）」側、「ささえる（関係者）」側が迫力のある演出を行い、その場にいるすべての人たちに感動体験の場を提供する。地域の小中学生を対象に体験イベントを実施し、行政や企業と協力して大学スポーツを地域社会に根付かせる。

## ③大学が有する資源の活用

救急救命、理学療法、児童教育など多様な専門分野の知見を積極的に取り入れ、教育的価値を高め、学生の実践的な学びの場とする。

## ④SNS発信と参加者が望む運営

大会の様子や選手の魅力をSNSで積極的に発信し、幅広い層への情報拡散と参加促進を図る。加えて、公式審判員やライブ配信、モチベーションが上がる演出を大学の資産（吹奏楽部などの課外活動団体の協力、健康科学部や発達教育学部の支援）を活用して展開し、参加競技者が「次も参加したい」と思える大会運営を行う。

## ⑤持続可能な運営体制の確立

実施経験を運営マニュアルに確実に蓄積し、今後の継続的な活動を支えるために安定した基盤を整備する。また、OB・OGや教職員、地域関係者のアドバイザー参画を促進し、多角的な支援ネットワークを形成することで、長期的に大会の質を向上させ、持続可能な運営を実現する。

## ■翌年度以降も持続可能な取組とするための手法

## ○学生主体運営の継承とノウハウの蓄積

大会運営で得た知見や資料をテンプレート化し、次年度以降の引き継ぎ体制を整備。過年度参加学生をアドバイザーとして参画させ、運営の質の向上と学びの循環を図る。

## ○地域との連携による共創体制の強化

地域に根差した存在として、継続的な連携と協働の基盤を構築する。

## ○資金確保と事業の自立化

企業・自治体・地域団体等の協賛、物販などにより資金獲得を図り、持続可能な大学スポーツイベントのモデル構築を目指す。